

研究雑話 (1)

障害児教育創始の背景

「友を招くように夕食を！」 藤井力夫

今号から北海道教育大学の藤井先生に登壇願うことになりました。藤井先生と三和荘の関係は長く、一〇年余りになります。昨秋からは荘生のストレッチングの効果測定をされたり、筋力や呼吸の調査を通して、三和のメンバーの生理学的な視点からの研究や助言を受けて日常の訓練活動に示唆を示していただきます。広い識見と研究や体験を通じた連載に御期待下さい。

貴重なスペースをいただいた。障害児教育の歴史、フランスの障害児教育、作業所の動向、及び作業姿勢、動作リズムなど生理学研究の成果など大事だと考えているところを書いてみたいと思う。三和荘に出入りして何よりもすばらしいと思うのは、食事づくりが大事にされていることです。食事を大事にするということは、障害者教育の枠組みに精神を入れるということです。歴史がこのことを教えてくれます。障害児教育は一八三〇年代から四〇年代にかけてフランスで創始されましたが、その前後における精神病院の院内改革、とくに食堂建設にかかわって、精神を入れるということの事情をお話したい。

一八三八年六月、現代社会における障害者保護の基本となった精神障害者保護法がフランスで制

定されました。エスキロールやファルレら当時の

精神医学者の努力によります。内容はつぎの三点。

① 心神喪失者のみならず、心神耗弱者も刑事責任無能力で、治療の対象であること(後者には精神薄弱者も含まれる)。

② 同意入院、措置入院いずれにしても不当な強制入院にならないよう複数の医師による診断、裁判所への不服申し立ての権利を用意したこと。

道徳療法の推進 (F.LEURET, 1840)

- a. 農場の確保
 - 農作業
 - 手仕事 (藁布団、帽子づくり等)
- b. 食堂の建設
 - 10人ずつ、友人を招くように
- c. 学校の創設
 - 読み、書き、算数
 - 詩、脚本の朗読 (表現読み)
 - 歌、音楽、合唱 (リフレイン)
- d. 図書室の設置
- e. 散歩の重視

③ 禁治産だが、患者の財産が近親者などにより不当に奪われないように病院監督委員会のもと施設長等により守られること。

精神障害ということによる社会的失権の打撃、これからどう守るか。個人の自由の擁護と財産の保護、制度的にはこれ自体が目的とされたわけで、とてもすばらしいことです。こうした成人に対する

処遇の確立を背景に、未成年者に対する感化教育と障害児に対する小児精神病棟での教育、これらが開始されたのでした。

けれども、一五五年後の今日の状況が示すように、新しい器には新しい精神が必要です。これが忘れられると、形骸化してしまいます。新しい器をつくった新しい精神、新しい魂。新しい精神とは何だったのでしょうか。それは人間性の尊厳を打ち立てるといふことです。たんに作業させるだけではなく、人間性に働きかける。人間の情動と知能に働きかける。たとえば、夕食を楽しく、友人を招くように一〇人ずつグループになって食べる。そのための食堂を建設しよう。これはファルレたちによってなされた改革の一つですが、改革に魂を入れることになった。当時の人たちが作業療法とは呼ばないで、道徳療法と名付けたのもうなづけれます。

この改革の先頭をきったパリのピセートル精神病院では、一八三〇年代はじめにはすでに農作業を積極的に取り入れていました。病院のまわりに農場を確保し、夏は畑仕事に汗を流させ、冬には修理作業、藁布団、帽子づくり、スリッパづくり

(以下八頁上段へ続く)

三和荘賛助会員の皆様へ

三和荘が13年め、ワークショップサンワが6年めを迎えます。障害者80人のむねは「人間の尊厳」を求めて歩み続けてきました。

人間が尊いのは自分自身の生命が、他者ととりかえられないところにあります。障害者は一生懸命に生きています。一刻一刻が全力投球で、自己存在の証明のためのたたかひの時間を刻んでいます。人間同志の支えあいの中で、各々が自己形成をしていく働きをしているのが「さんわ」の仲間たちです。

「さんわ」の購読料は年額1,200円です。「社会福祉協力費」(三和荘賛助会費)は、年額1口5,000円(以上)です。「さんわ」無償配布。皆様のご協力をお願いします。

○銀行口座

北海道銀行琴似支店

口座番号 255210 (普通預金)

加入者名 札幌市西区発寒 条 丁目

三和荘賛助会

(電話(011) - 番)

○郵便振替口座

口座番号 小樽5 10386番

加入者名 札幌市西区発寒 条 丁目

三和荘賛助会

△ 荘外編 ▽

一位 (男子)

スペースシャトル
打ち上げ。毛利衛
さんの宇宙授業

△ 荘内編 ▽

一位 (男女共に)

秋の白金温泉旅行

二位 (男子)

コミュニケーション
ン博覧会見学

三位 (男子)

突然の豪雨、手稲
山登山

(女子)

CSリラの会によ
るラケットボール
の指導

(女子)

CSリラの会によ
るラケットボール
の指導

△ 荘外編 ▽

一位 (男子)

スペースシャトル
打ち上げ。毛利衛
さんの宇宙授業

(三頁より続く)

等の手作業を実施したとのことです。しかしこれだけではあくまでも作業で、恐怖による強制もありうるわけです。事実、ピセートルでもそうした側面が支配的であったといえます。ところが、食堂づくりによって意味あいはまったく違うものとなった。一〇人ずつグループをつくって食事する。あらかじめ切って配膳することはしない。各テーブルでは班長が友を招くように気を配る。スプーンもフォークも凶器になることは一度もなかったという。この試みは作業を通じての療法に人間性に働きかけるといふ新しい精神を具体化させることになった。このことは容易に想像がつかず、これを契機に連鎖的に院内改革が実現していった。成人病棟での学校の創設。朗読、表現読み、合

心に残る

三大ニュース

'92

唱が取り入れられ、散歩が重視された。これらはいずれも脳神経系の安定と回復にいい効果をもたらしたであろうことはいうまでもない。他方、未成年に對しては、一八三九年、小舎制の農業感化院(メットレ)の設置。知能障害児に對しては、一八四一年、手作業を中心とする小児精神病棟(ピセートル)の創設。これらへとつながって、くのであった。(北海道教育大学助教授)

昨年暮れに「今年を振り返って心に残るビッグニュースは？」と荘生に聞いてみると、いろいろな答えが返ってきました。

(女子) 貴花田関と宮沢りえさんの婚約発表

二位以下は、男女共に少数意見で「オリンピック」「高速道路(三和荘裏の札幌自動車道と道央自動車道を結ぶ道路)の開通」等、たくさん出ました。

★△ 荘内編 ▽の白金温泉旅行は、JR列車を利用して秋の大雪山連峰や富良野原野の雄大さを満喫してきました。★九月中旬に行われた登山。手稲山の頂上をめざしていたメンバーを突然襲った豪雨。十五分程で雨は止み、何もなかったかのような青空。誰も風邪をひかなかったのが何よりでした。★△ 荘外編 ▽ではやはりテレビ・新聞等で一番に賑やかした事柄。男女の興味が表れたようでした。

さて、皆さんはどんな事柄が一番心に残っていますか。嬉しいこと悲しいこと、楽しいこと辛いこと、いろいろあったと思います。今年(酉年)喜ばしい事を、とり逃がさないようにしたいものです。

☆ 行事予定 ☆

- 二月三日 節分
- 二月五日〜十一日 雪まつり

☆ 編集後記 ☆

スパイクタイヤからスタットレスタイヤに変わった初の冬。道はツルツル。歩く方も運転する方も身のひきしまる季節です。